

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成24年9月13日(2012.9.13)

【公開番号】特開2011-87265(P2011-87265A)

【公開日】平成23年4月28日(2011.4.28)

【年通号数】公開・登録公報2011-017

【出願番号】特願2009-240935(P2009-240935)

【国際特許分類】

H 04 M 3/58 (2006.01)

【F I】

H 04 M 3/58 B

【手続補正書】

【提出日】平成24年8月1日(2012.8.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項5】

請求項1から4のいずれかに記載の電話端末であって、

前記コールバック処理装置への発信先電話番号と、関連する接続パスワードを記憶する手段を複数有して、

発信時に入力された接続したい相手先の電話番号または特定のコールバック発信要求操作によって、対応する前記コールバック処理装置の発信先電話番号を自動的に選択して発信し、前記コールバック処理装置からのコールバック着信に応答後、対応するパスワードと接続したい相手先の電話番号を通知することを特徴とする自動コールバック応答機能を有する電話端末。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

次に、ダイヤルの入力が終了した際(S1004, Y)、コールバック発信検出部113においてコールバック型発信が要求されたか否かを判定し(S1006)、コールバック発信が要求されたことを検出すると(S1006, Y)、制御部120に通知し、制御部120は入力されたダイヤル情報の内、接続先を指定するダイヤル情報を抽出して接続先記憶レジスタ121に記憶した後(S1011)、コールバック処理装置呼出番号記憶部122に記憶されたコールバック処理装置3の電話番号宛に発信するよう発信指示部102に指示する(S1012)。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0029

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0029】

電話端末 1 において、コールバック処理装置 3 につながったことを示す呼出中信号を検出すると(S 1 0 1 3)、自動的に発信を中止(切断)する(S 1 0 1 4)。このときの呼出信号の検出方法は、アナログ回線では、トーン検出回路を設けて電話網 2 より送出される呼出音(R i n g B a c k T o n e)を検出し、I S D N 回線であればA L E R Tメッセージの受信、I P 回線であれば 1 8 0 または 1 8 3 (R i n g i n g) レスポンスを受信したことによって判断する。